

地域情報（県別）**【群馬】若手医師確保に向けた研修医交流会や医師雇用サイト開設-県医師確保対策室長と県医師会副会長に聞く◆Vol.2**

2020年2月21日（金）配信 m3.com地域版

若手医師が不足する群馬県が課題解消の一助にしたいと、2019年10月に立ち上げた「ぐんま総合医会」。同会では今後、研修医同士の大規模な交流会を定期開催していくほか、群馬で働きたい医師の窓口となるサイトを開設する予定。情報媒体として存在感が増す動画にも着目し、県庁に設置する動画スタジオを活用したPRも行っていきたいという。県医師確保対策室室長の高橋淳氏と県医師会副会長の川島崇氏に聞いた。（2019年12月5日インタビュー、計2回連載の2回目）

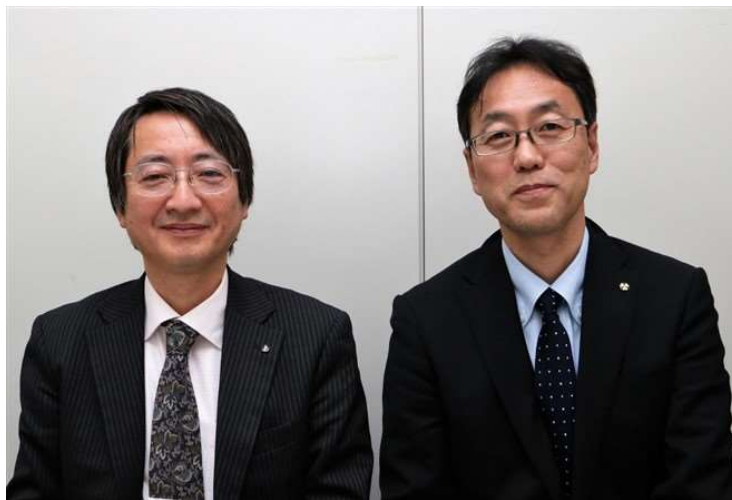
▼第1回はこちら

——ぐんま総合医会として今後は研修医同士の交流も促していきたいとのことですが、以前にそんな場はなかったのでしょうか。

川島 県では2011年から初期臨床研修医が日ごろの学びを発表する「ぐんまレジデントグランプリ」という取り組みを毎年開催していますが、研修医同士の交流を主目的とした大規模な集まりの場は今までありませんでした。

前回、「研修内容は東京と群馬でさほど変わらないのではないかと話しましたが、では何が違うのかということ、その一つに研修医同士の横のつながりの強さが挙げられると思うのです。東京には大学病院やそれに準ずる規模の大きな病院が多いので、必然的に研修医同士の交流が生まれやすく、また東京で研修を受けている医師から聞いた話では、研修医がさまざまなグループを作って自主的に活動や発表を行っているそうです。

群馬大学出身の研修医であれば他の研修医の知人や友人もいると思いますが、群馬大学出身者は研修医全体の割合からすれば6割程度。県外の大学から地元に戻ってきた人や群馬にゆかりのなかった研修医も少なくありませんから、若い医師全体の交流をもっと活発にしていきたいと考えています。



高橋淳室長（右）と川島崇副会長

——交流の場として具体的にはどんな形を考えているのでしょうか。

川島 実は、ぐんま総合医会を立ち上げる前に試験的に今年の4月に交流会を開きました。研修医1年目の人に集ってもらい、医師会のメンバーにも参加してもらって講演会や意見交換会を行いました。当日は90人ほどが集まったのですが、今後はさらに規模を拡大したいと考えています。来年4月に第2回を開く予定で、その際には全ての研修医にお声がけて、研修医2年目の先輩にも少し集まっていただく予定です。

高橋 ぐんま総合医会ができたことでこうした場づくりも行いやすくなりました。ぐんま総合医会のメンバーには全ての臨床研修病院が入っているので交流会に参加してくれる研修医との顔つなぎもしやすくなりますし、県としても今までは何かを企画する際に病院に個別にご連絡する必要がありましたが、今後は情報共有もしやすくなるでしょう。ぐんま総合医会の会議は既に2回、設立日の10月2日と11月5日に行い、医師確保計画の内容を話し合ったり、臨床研修マッチングの結果の検証などを行ったりしたわけですが、そんな手応えがありました。

——群馬県には、ぐんま総合医会のほか、「ぐんま地域医療会議」や「ぐんま医療人ネットワーク」といった似た名前の組織が複数あります。違いが分かりづらいと感じる読者もいると思うので、教えてください。

高橋 ぐんま地域医療会議は、群馬大学と県、県医師会などが協力して医師の適正配置について検討する会議体です。群馬大学が腹腔鏡の事故を受けて行っている「群大改革」の柱の一つである「地域医療貢献」を進めるため、医師派遣に関する課題を調査、把握、整理して改善していこうと2018年に設立しました。

ぐんま医療人ネットワークは群馬大学単体の取り組みであり、これも2018年に設立しました。ぐんま医療人ネットワークは端的に言えば、医療スタッフの職業相談窓口です。群馬県の医療機関と群馬県で働きたい医師の双方の相談に対応し、両者を県が運営するドクターバンクなどにつなげる機能を持っています。

「ぐんま総合医会」「ぐんま地域医療会議」「ぐんま医療人ネットワーク」と確かに名前は似ていますが、こんな風に役割は異なっています。国が地対協の設置を義務付けたのは医師確保に対する指揮命令系統を整理することなので、ぐんま地域医療会議などの取り組みもぐんま総合医会に報告されるようになります。

——最後に、読者である医療関係者に伝えたいことがあればお聞かせください。

川島 ぐんま総合医会の設立は私の念願でありました。今までは、医師会として医師確保を目的に何らかの取り組みを行おうとしても、既に他の組織が同じようなことをやっていて、そのことを知らなかった、ということがありました。私ที่ไม่知らないということは他のほとんどの開業医の先生が知らないということでしょうし、また医療の現場の中で行政が知らないこともあります。まずは情報共有の場をつくれたのは良かったですね。

ぐんま総合医会には複数の役割がありますが、中でも研修医の声に耳を傾けて改善できることは順次行っていき、若い医師にとって魅力のある群馬に成長できるようにしたいと考えています。若い先生としては立場上、言いづらいことがあるかもしれませんが、できれば率直に問題点と要望を伝えてくれるとありがたいので、真摯に受け止めたいたいと考えています。それと、「研修」をテーマに考えたときにはやはり指導医の存在も重要。優秀な指導医に来てもらえるためにはどうすればいいかも考えていかなければなりません。

高橋 県では現在、ぐんま総合医会のホームページを作っているところです。これには、医師として群馬県で働くための情報を網羅できる機能も持たせようと考えていて、群馬で働くことに関心のある医師の窓口にしたいと考えています。今まではそんなサイトがなかったので、完成すれば一つの前進になるでしょう。たとえ群馬でいろんな取り組みを行っていても、それが情報として医師に届かなければ意味が小さいので、有効なPR方法を検討して実施していくことも大切です。

情報を発信・収集する媒体としては動画の存在感が加速度的に増していますが、県はこの流れを受け、現在、県庁32階に動画スタジオを作っている最中です。2020年度から運用する予定ですので、動画スタジオを活用して群馬で活躍する医師を紹介するなど医療面のPRも図っていきたいですね。個人的に私もこの仕事をする中で、群馬にもたくさんの魅力的な医師がいて、また医療機関があることを知りました。県として、ぐんま総合医会のメンバーとして、若い医師に響く施策を今後も検討していきたいと考えています。

◆高橋 淳（たかはし・じゅん）氏

群馬県健康福祉部医務課医師確保対策室長。

◆川島 崇（かわしま・たかし）氏

1985年に新潟大学医学部を卒業し、1995年に川島内科クリニック（群馬県渋川市）を開院。群馬県医師会副会長。

【取材・文・撮影＝医療ライター 庄部勇太】

記事検索

ニュース・医療維新を検索

